**７月　園だより**　　園長　小西　只剛

水、どろ遊びが楽し～い　♪♪

暑くなって、水が恋しい季節となりました。本格的なプール、水遊びが始まる前に、子どもたちは泥んこ遊びを楽しんできました。園庭にホースで水を流すと、子どもたちは大喜びです。さっそくそこから川づくりの大工事を始めるそらの子どもたち。広い園庭の中、スコップでせっせと川を作って畑まで伸ばしています。数日かけて川を作り上げ、「僕たち川作ったんだよ。名前はののかぜ川」と自慢げに教えてくれました。

「土で育つ～『土育』のすすめ覚書」愛知教育大学、太田弘一氏の土と人との関わり、文化に関する資料の中で、なるほど…と教えられことがたくさんありました。全部紹介したいところですが、紙面の都合上少し紹介したいと思います。

現代の都市での生活は、地面はアスファルトとコンクリートに覆われた中にあり、土と触れ合う機会がむつかしくなっている。自然が大切、緑が大切、自然との触れ合いの環境教育と言われている中で、人間の生活の中で泥との関りがいつの間にはなくなってしまっている。

子どもたちは泥んこ遊びが大好き、そして、日本各地にあるお田植え祭りの中で大人も泥んこ遊びが大好き、日本だけでなく世界の人々も同じように大好きで、「なくてはならない遊びだった」と紹介されています。

各地で泥だらけになって祭る「泥打祭り」や「どろかけ祭り」などが田んぼの中で行われ、「田の神様」とつながり、その年の豊作や健康を願う日本人の文化として「どろ」との関りは大切にされてきました。子どもたちにとって泥んこ遊びは、いろんなものに見立てたり、変化や感触が楽しめる遊びです。たっぷり楽しませてあげたいですね。

平和の詩

6 月 23 日は、沖縄の「慰霊の日」でした。終戦前、本土決戦の捨て石とされた沖縄にアメリカ軍が進行し、島全体が焼かれ、全島民の 4 人に 1 人が犠牲になりました。このことを忘れないために、この日を「慰霊の日」として定め、激戦地だった糸満市の摩文仁の丘に記念碑「平和の礎（いしじ）」が建てられました。毎年ここで「沖縄全戦没者追悼式」が行われています。2017 年の式典で語られた「誓い～私たちのおばあに寄せて」という高校 3 年生の上原愛音（ねね）さんの詩を少し紹介します。

「母の呼び声と、目玉焼きのいい香り。いつも通りの朝が来た。　七十二年前　恐ろしいあの影が忍び寄るその瞬間まで　おばあもこうして朝を迎えただろうか。おじいもこうして食卓についただろうか」で始まる詩は、沖縄戦でガマの中で起こったむごい出来事や苦しみが想像できるものでした。　しかし、決して暗くはなく、沖縄のきれいな海の事や文化も浮かび上がってくるものでもあります。そして、「おばあ、大丈夫だよ。　今日、私たちも祈っている。　尊い命のバトンを受けて　今　祈っている。おじい、大丈夫だよ。この島にはまた　笑顔が咲き誇っている。

（略）誓おう。私達はこの澄んだ空を二度と黒く染めたりはしない。誓おう。私達はこの美しい大地を二度と切り裂きはしない。ここに誓おう。私は、私達は、この国は、この世界は、きっと愛しい人を守り抜くことができる。この地から私達は、平和な使者になることができる。」と続けています。

今年は、小学 6 年生の山内玲奈さんが「本当の幸せ」という詩を式典で堂々と語りました。玄関のところに全文を紹介しましたので、もう読まれた方もみえるかと思います。まだという方はお時間のある時にぜひ読んでみてください。

未来を担う若者や、子どもたちからのこうした力強い発言に爽やかな感動をもらいました。